

# 小林道夫

## チェンバロリサイタル 第5章

2022年1月30日の延期公演

To: Kobayashi - San



Kimoshitama

©木之下晃

iichika 総合文化センター

iichika 音の泉ホール

[全席指定]

入場料 一般 3,000円  
U25割 1,500円

<友の会びび割>

KOTOBUKI 2,550円  
TAKASAGO & UME 2,700円

[2公演(第5章・最終章)セット券]

一般 5,000円  
KOTOBUKI 4,500円  
TAKASAGO & UME 4,750円

※チケット取扱い先については中面をご確認ください

# ゴルトベルク変奏曲

小林道夫チェンバロリサイタル

## 最終章

Kobayashi Michio  
Recital



iichika 総合文化センター

iichika 音の泉ホール

[全席指定]

入場料 一般 3,000円  
U25割 1,500円

<友の会びび割>

KOTOBUKI 2,550円  
TAKASAGO & UME 2,700円

2023

2/24 (金) 開場 18:15  
開演 19:00

J.S.バッハ

ゴルトベルク変奏曲 BWV988  
(クラヴィーア練習曲集第4部)

2023年1/14(土)に  
事前レクチャーを開催します!  
詳細は裏面をご覧ください。

2022 12/10 (土) 開場 13:15  
開演 14:00

J.S.バッハ

イタリア趣味による協奏曲 ヘ長調 BWV971 (クラヴィーア練習曲集第2部)  
4つのデュエット (クラヴィーア練習曲集第3部より)  
ホ短調 BWV802、ヘ長調 BWV803、ト長調 BWV804、イ短調 BWV805

主催  
お問い合わせ

iichika 総合文化センター  
[(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団]  
〒870-0029 大分市高砂町2-33 Tell.097-533-4004

特別協賛

三和酒類株式会社

助成

文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)、  
独立行政法人日本芸術文化振興会、一般財団法人地域創造

後援

大分県、大分市、NPO法人大分県芸術振興、大分合同新聞社、  
西日本新聞社、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、  
J:COM大分ケーブルテレコム、エフエム大分、ゆふいんラヂオ局、  
月刊・シティ情報おおいた



## 事前レクチャー開催!

2023年1月14日(土)

開場14:30 開講15:00

講師: 小林道夫

場所: iichiko SpaceBe リハーサル室

参加費 | 500円

定員 | 45名(先着順)  
チケットに記載される整理番号順に入場をご案内します

申込方法 | 電話、窓口にてお申込みください。  
※要チケット(窓口にて発券できます)

申込受付日 | <びび> 9月22日(木) 10:00~  
<一般> 9月29日(木) 10:00~  
(チケット発売日と同日です)

※ 第5章のレクチャーは、2021年11月20日に終了しました

## 名作「ゴルトベルク変奏曲」を小林先生自身がチェンバロ演奏を交えて解説します。

毎回大好評の事前レクチャーを今年も開催します!

過去のレクチャーの参加者からは「楽譜からわかることを教えていただけて、とても楽しかった」「小林先生のバッハ音楽に対する深い愛情を受け取った」との声をいただいております。より深く本公演を楽しんでいただけるレクチャーです。



©木之下晃

### 小林道夫 チェンバロ

チェンバロ、ピアノ、室内楽、指揮など活動が多岐にわたる第一人者。特にバロック音楽に造詣が深く、バッハ演奏では最高の評価を得ている。毎年年末には、J.S. バッハ作曲「ゴルトベルク変奏曲」のリサイタルを開催している。室内楽プログラムも多彩で、長年のキャリアに裏付けされた深い解釈は日本のみならず、世界各地で高く評価されている。1956年毎日音楽賞・新人奨励賞、1970年第1回鳥井音楽賞(現サントリー音楽賞)、1972年ザルツブルク国際財団モーツァルト記念メダル、1979年モービル音楽賞、2020年第30回日本製鉄音楽賞特別賞を受賞している。現在、大分県立芸術文化短期大学客員教授。

## 小林道夫先生による、J.S. バッハの楽曲をチェンバロで演奏するリサイタルシリーズ

平成29年度から開催しており、今回で最終章となる。使用楽器はiichiko 総合文化センター所有の1998年フランス製「フォン・ナーゲル」

表の写真は、アルゲリッチ等著名な音楽家を数多く撮影した写真家の巨匠、木之下晃氏(2015年没)が、小林氏の自宅にて撮った1枚。サイン入りのものを使用しました。

## 西洋音楽発祥の地プロジェクト

大分は16世紀後半にキリスト教の伝来とともに西洋文化が花開き、教会で聖歌が歌われていた歴史にちなみ、日本における「西洋音楽発祥の地」と言われています。iichiko 総合文化センターでは、「西洋音楽発祥の地プロジェクト」に取組み、古楽器やバロックの演奏会をシリーズで開催しています。



●上演中の客席への入場は制限させていただきます ●未就学児童の同伴はご遠慮ください 無料託児サービスをご利用ください [要申込:第5章(12月2日(金)17:00まで)、最終章(2月17日(金)17:00まで) 満2歳児から未就学児まで。先着5名] ●やむを得ない事情により、曲目などが変更されることがあります ●公演中止の場合を除き、予約・購入後のキャンセル・変更・払戻はできません ●営利を目的としたチケットの転売は法律で禁止されています。転売されたチケットは無効となる場合があるのをご注意ください ●友の会びびの方は、お電話での座席指定予約ができます。一般の方は9/30(金)10:00よりお電話予約ができますが、座席の指定はできません ●無料託児サービスおよび車いす席のお問合せ・ご予約はiichiko 総合文化センター企画普及課(097-533-4004)までご連絡ください

公演特設ページ	小林道夫 チェンバロリサイタル 第5章		小林道夫 チェンバロリサイタル 最終章	
---------	---------------------------	--	---------------------------	--

チケット発売日	第5章、最終章、レクチャー全て同じ日 <びび> 9月22日(木) 10:00~ <一般> 9月29日(木) 10:00~ ※一般の電話予約は9月30日(金)10:00~
---------	---

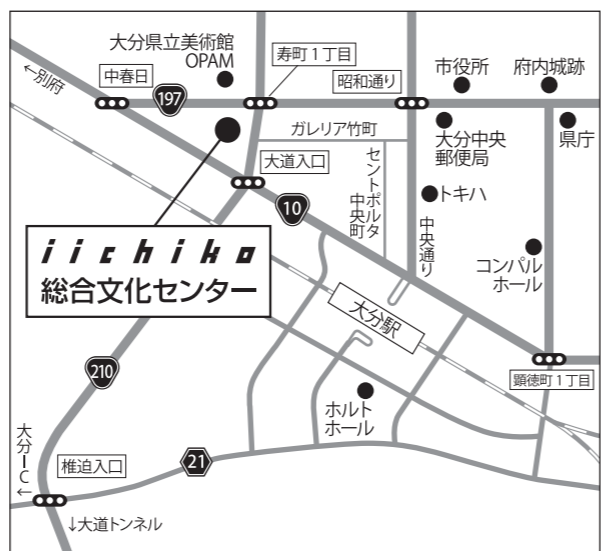
取扱先 ※U25割の取り扱い★のみ ※セット券の取扱いは♪のみ

- ♪★友の会びびチケット予約専用電話番号 ..... 097-533-4005
- ★iichiko総合文化センター ホームページ(インターネット販売) <https://emo.or.jp>
- ♪★iichiko総合文化センター 1階インフォメーション
- トキハ会館 3階プレイガイド ..... 097-538-3111
- エトウ南海堂 ..... 097-529-7490
- トキハ別府店 1階プレイガイド ..... 0977-23-1111
- チケットぴあ .. Pコード【第5章:209-750】【最終章:225-290】
- ローソンチケット .. Lコード【第5章:84647】【最終章:84424】

主催・お問合せ **iichiko 総合文化センター** 【(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団】

Tel: 097-533-4004 〒870-0029 大分市高砂町 2-33

**iichiko 総合文化センター**



■ 大分駅から徒歩約15分 ■ 大分ICから車で約7分

## 音楽と数学

バッハは、ミツラーが1738年に創始した音楽学術協会に14番目の会員として入会し、ハウスマンに肖像画を画かせて贈り、会員達にはゴルトベルク変奏曲の低音主題の開始部分を主題にした6声部の謎カノンを配ったことが知られています。ミツラーはバッハより11才年下で、ライプツィヒ大学で哲学と数学を学び、博士論文は「音楽芸術は哲学の一部分か否か」で、彼はそれをバッハとマッテゾンに贈ったということです。卒業後、大学に残った彼は数学と哲学の他に、1713年に出版されたマッテゾンの「新設のオーケストラ」という理論書について授業をしたそうです。どういう形であったのかはわかりませんが、ミツラーは音楽の実践についてはバッハに教わり、理論的な知識はバッハとマッテゾンから得たと述べています。ミツラーの立場は、音楽作品の構造上の枠組の比例関係よりも、旋律と和声に数学が働いているというもので、数学こそが音楽の心であり、魂であると言い切っています。それに対してマッテゾンは、音楽の中での数学の重要性は認めながらも、その役割は、建築の場合の平面図のように外側の輪郭と内側の部分の比例関係を決めることにあって、旋律と和声には関係が無いと言って、1737年から、ほぼ毎年お互いに印刷物によってそれぞれの対立する立場を主張しました。1740年にマッテゾンが出版した「音楽の凱旋門の基礎」という音楽家の人名事典に、バッハは全く資料を出しませんでした。ミツラーは、自分の音楽の知識はすべてバッハとマッテゾンに負っている、と書いているようで、それに対しマッテゾンは、バッハも私も、ミツラーの言うように数学こそが音楽の核心だなどと言ったことは絶対に1度も無いと言明しているということです。

そして、ゴルトベルク変奏曲が出版されたのが翌1741年。この曲の全体の構成上、数が果している役割はとて多く、何層にもなっているのですが、旋律と和声については、変奏曲という形式上、全く自由というわけにはいかないわけです。一方で構成的にみれば、主題のエリアは32小節で、曲全体でみれば前後両端のエリアと変奏で32、30の変奏は15ずつの2部分にはっきりと分けられ、又、エリアとかパスピエとか名前を付け得るような性格と、2段の鍵盤を必要とする技巧的なもの、それにカノン、とこ

の3つが1つのグループとなり、それが10つながって30の変奏となるわけですが、最初と最後のグループだけ様子が違っていたり、数の方も整然としていたり、複雑だったり、とても一筋縄では行けない技巧の限りを盡していると言えます。形の上で数(数学)が果たしている役割は超絶的と言えると思います。これはマッテゾンの立場と一致し、又、ゴルトベルク変奏曲作曲の時期がミツラー対マッテゾンの論争の時期とほぼ一致するとみられ得ることから、この曲はカイザーリンク伯爵の不眠症ではなく、ミツラー・マッテゾン論争へのバッハの完璧な答えとみられるというのが、2002年にドルトムントで開かれたバッハ・シンポジウムで発表された、チェンバリストでもある学者ドン・O・フランクリンの説です。これを読むと、バッハは本当は早くから誘われていたのに、14番目まで待っていたのは、本当はミツラーの協会に入るのはあまり気が進まなかったからではないかという気がします。

フランクリンは更にこの曲について、主題や、各々の変奏の終りの複縦線の上に というマーク(フェルマータ:音を伸ばしたり、時には終止点を示す。)があるものと無いものが見られ、不規則に並んでいることを解説して、そこからも数の仕掛けを説明していますが、説明が長くなり過ぎて残念乍ら触れられません。ただ、カイザーリンク伯爵が、外交手腕と音楽だけでなく、科学にも明るく、ロシアに1730年に行き、3年後に王立科学アカデミーの会長になったこと、1747年にドレスデンからベルリンに移ってすぐ王立科学アカデミーの会員に選ばれるなどの経歴から考えると、ドレスデン時代には特にバッハ一家と親しい関係にあったし、ミツラー対マッテゾンの論争にも興味をひかれ、ひょっとしたらその問題についてバッハと話合った可能性もなくはなからうし、ライプツィヒ大学に入学した息子に会いに行ったついでに、ゴルトベルクをつれて行ってバッハのレッスンを受けさせ、1部分か全部か変奏曲を弾いたことも無いとは云えないかも知れないので、カイザーリンクがゴルトベルク変奏曲の成立と関係が無いとは云えないというのがフランクリンの説です。

小林道夫